

平成30年度第2回帯広市環境審議会 議事録（概要）

日 時：平成31年2月19日（火）9：30～10：35

場 所：帯広市役所10階 第5A会議室

○出席者（9名）

・ 委員：梅津会長、小野委員、加納委員、西岡委員、丹羽委員、橋本委員、伴委員、山中委員
山根委員 ※欠席者6名

・ 事務局：川端市民環境部長、和田市民環境部参事、榎本環境担当調整監、小林環境都市推進課長、西島環境都市推進課長補佐、関井係長、田中主任補、荒谷係員

・ 傍聴者等：報道関係者2名

○配布資料：座席表、委員名簿、議事次第、第三期帯広市環境基本計画について（資料1-1、1-2、1-3）、帯広市環境モデル都市行動計画（2019年度～2023年度）（案）について（資料2-1、2-2）、平成29年度環境モデル都市フォローアップについて（資料3-1、3-2）

1 開 会

2 議 事

（1）－1 第三期帯広市環境基本計画について

第三期帯広市環境基本計画について、事務局より説明。

○委員からの意見・質疑

【委員】環境基本計画は、10年間と計画の期間が長くなっていますが、環境の変化や災害の発生など、状況が目まぐるしく変化しているため、3年位での周期で見直しを行うのが良いのではないのでしょうか。

【事務局】この計画は、10年間という比較的長いスパンの計画となります。その間に社会情勢の変化があった場合、状況を見極めながら必要に応じて見直しをかけていきたいと考えています。

（1）－2 帯広市環境モデル都市行動計画（2019年度～2023年度）（案）について

帯広市環境モデル都市行動計画について、事務局より説明。

○委員からの意見・質疑

【委員】市内のとかちむらで水素を利用していることを、意外と帯広市民は知らないと思うので、周知した方が良いのではないのでしょうか。鹿追町民も、水素を製造しているバイオガスプラントを実際に見学した人は非常に少ない。

【事務局】水素の事業ですが、環境省の実証事業として、民間の事業者が実施しています。鹿追町のバイオガスプラントで発生したメタンを原料に水素を製造し、ボンベに詰めて輸送し利用する

取り組みです。とからむらに水素を燃料とする燃料電池を設置し、熱と電気を発生させ、電気は事務所で、温水は共用トイレの手洗いのお湯で使われています。ポスターを貼ったり、入口に水素事業の内容を解説したパネルを展示しています。多くの環境に係る団体が視察に来ている状況です。

【委員】主な取り組みの中で、スマート農業の取り組みがあります。確かにそういう技術を導入する事で環境保全につながると思いますが、ゼロの状態から導入するとなると、かなりコストがかかると思います。帯広市では支援策などを検討しているのでしょうか。

【事務局】環境都市推進課としては、具体的な支援をすることは考えてはいませんが、イベントの際に業者の方に来てもらい、技術を広く市民に紹介してもらおうことを考えています。他の部署では、制度資金なども用意しています。

【委員】スマート農業ですが、GPS を活用したトラクターという話を断片的に聞いていますが、その取り組みが具体的にどういうものか、一般の方は知らないと思います。もう一点、二酸化炭素削減に具体的にどうつながっていくのかが見えにくいので、この技術の普及方法と合わせ、説明いただければと思います。

【事務局】スマート農業の取り組みには様々ありますが、二酸化炭素排出削減につながり、定量化できるかは非常に難しい部分であると思っています。その中でいくつか二酸化炭素排出削減につながる取り組みをご紹介します。一つ目は、長芋のプランターでガソリンエンジンではなく、ソーラーパネルを搭載した機械が実用化されています。これは、ガソリン消費量がそのまま削減できるということで、稼働時間などから計算し、二酸化炭素排出削減量を算出します。また、GPS トラクターは、農作業が正確に行えることから、作業で重複してしまう部分をなくし、稼働時間を短縮することができます。この短縮した時間から計算により、二酸化炭素排出削減量を算出することができるのではないかと考えています。

【事務局】その他の具体的な例としては、小麦は7月下旬頃に刈り取られますが、乾燥の状態を衛生画像によって分析し、刈り取りの一番良いタイミングが分る様になっています。この情報に基づき、刈り取りの順番を決めてくことで、小麦の乾燥に使用する灯油の削減につながるという取り組みを行っているとのこと。

【委員】非常に興味深い話ありがとうございます。こういう話は、農業に関わっていない方、興味がない方でも、聞いたら興味を持ってもらえると思います。こうした情報を積極的に提供していけば、農業に対するイメージは変わるし、十勝での農業は、他の地域と一線を画すこととなり、色々な意味で良いことだと思います。さらに、若い人の定着につながるなど、違った部分でプラスになると思います。

【委員】農業の関係では肥料をどのように散布すると良いかわかるマップができていると聞いています。そのマップを使うことで、肥料の量を削減でき、肥料製造時の二酸化炭素排出削減につながります。こうした技術を多くの農家が利用すると、結構な二酸化炭素排出削減量になってくると思います。また、肥料をまくことで農地から温室効果ガスが出ますし、そうした温室効果ガス発生量削減に関する研究が進んでいますので、今後、排出係数が出てくると思います。これからも、スマート農業を推進し、温室効果ガスの削減につなげていただくよう期待しています。

【委員】今、皆さんのお話を聞いて、皆さんには農業に対して関心を持っていただいております、また皆さんの意見はもつともだと思いました。実際に、地域の農業者は色々と取り組んでおり、私たちは農協職員として地域の農業者に対して情報発信はしていますが、市民に対する情報発信はまだまだ不足していると、話を聞いて思いました。スマート農業の取り組みについても、数年前から市で有利な制度資金を用意して頂いて、農業者も数多く利用していますが、その情報は、農協内だけになっていると思いました。これからは農業団体としても情報発信していかなくてはならないと思っています。二酸化炭素の削減については、スマート農業から大きな削減につながられるのか、今の時点ではなかなか難しいと思いますが、帯広市は農業を中心とした都市ですので、こうした取り組みについても、今後、発信をしていきたいと思っています。

話は変わりますが、太陽光発電と蓄電池の導入を進めるとしてありますが、蓄電池については、私どもも今、検討に入っているところですが、高額なため、導入をためらっています。一般家庭に対して蓄電池の普及促進とありますが、助成措置などがあるのか、説明いただければと思います。

【事務局】来年度予算は議決前ですので、確定的なことは申し上げられないのですが、昨年9月のブラックアウトの経験を踏まえ、家庭における電力自立化というのは重要な取り組みだと考えています。また近年、一般家庭における太陽光発電の普及が、再生可能エネルギーの固定価格買取制度における買取価格が年々低下していることもあり思わしくないため、蓄電池と合わせて普及を進めていきたいと考えています。

【委員】地球温暖化ですが、今後は今までの緩和とともに適応が重要とありますが、市民感覚でいうと、適応は異常気象とか、ブラックアウトの問題、大雪の問題について、どのように対応していくのかだと思います。市民にとっては、こうした問題が発生しないように制御していくことが、環境問題の一つとして重要な課題だと思います。私は、コンパクトなまちづくりを進めることで、色々と効果があると思っています。

(1) - 3 平成29年度環境モデル都市フォローアップについて

環境モデル都市フォローアップについて、事務局より説明。

○委員からの意見・質疑

【委員】各町内会の防犯灯がLED化していますが、説明の中で触れられていなかったもので、触れるべきだと思います。また、帯広市は雪解け後に、ごみが少ないのです。これは市民の意識の高さによるもので、こうした市民の努力は、評価されるべきだと思います。その他、ノーカーデーの取り組みですが、一般企業で仕事をしている人は、参加は難しいと思いますが、上手くいく方法があればと思っています。例えば、市民意識にだけ頼るのではなく、バスを使えばバス代を助成するとか、具体的な支援があれば良いと思います。

【事務局】照明のLED化ですが、随分前から取り組んでおり、真新しさがいないため、記載はしていません。ごみに関してですが、帯広市では、クリーンキャンパス21という団体による清掃活動、また個人によるエコフレンズという取り組みをしており、多くの方々に清掃活動を行って頂いています。他都市の議員などの視察を受け入れています、皆さんから帯広市は綺麗ですぬと仰っていただいています。二酸化炭素排出量削減に結びつけるのは難しいとは思いますが、市

民の環境意識が高いという点は、帯広市が自慢できる部分と思っています。また、ノーカーデーですが、現在、バス会社に協力をお願いして、車内に啓発のポスターを掲示したり、市からノーカーデー参加を呼び掛ける車内放送を流してもらっています。これはバスを利用している方に対するものとなっているので、バスを利用していない方にどうやって普及、啓発していくかが課題と考えています。

【委員】二酸化炭素排出量の推移の中で、家庭部門は増加していると記載されています。市民の省エネ意識は、広がっていると思いますし、電化製品も省エネのものが随分、普及していると思いますが、家庭部門で排出量が増えている原因は、人口は減っているが世帯数が増えているためということでしょうか。

【事務局】家庭部門の増加の要因は、お話にあった通り人口が減っている一方で世帯数が年々増えているためだと考えています。世帯数が増えると基礎的なエネルギーが増えることとなりますが、例えば暖房機器については、1軒で4~5人が生活していても、1人で生活していても同じ様に使うため、世帯数が増えると、エネルギーの増加につながります。また、近年、地球温暖化の影響があると思いますが、エアコンが普及してきましたし、パソコンなど家電製品が一般家庭において普及したことも、家庭部門の二酸化炭素排出量増加の要因であると考えています。

【委員】資料の中で、SDGsの話が載っていますが、まだ認知度が低い。帯広市も、環境面から切り取り、積極的にSDGsの考え方を入れてアピールしていくと良いと思いますが、いかがでしょうか。

【事務局】SDGsの色々な取り組みが全国的に進んでいます。環境モデル都市の発展型という意味合いで、環境だけではなく、福祉をはじめ、地域の経済・社会の課題解決を目指すSDGs未来都市があります。環境モデル都市行動計画策定時のパブリックコメントで、SDGs未来都市を目指してはどうかというご意見をいただきました。SDGsの対象範囲は広がっていますので、環境部門だけでは対応しきれませんが、そういう方向に向かっていかなければならないという認識は持っています。また、フードバレー十勝の取り組みというのは、SDGsにつながっている取り組みです。そういう意味では、帯広市はすでにSDGsの取り組みが進められてきているという認識を持っています。

(2) その他

【事務局】現委員体制で環境審議会を開催するのは、今回で最後となります。これまでの2年間、委員の皆さまには様々なご意見を頂き、ありがとうございました。新年度を迎えましたら、新たな体制で、審議会を開催させて頂きたいと考えています。改めて、これまでの2年間の皆様のご協力に感謝を申し上げます。

事務局からは、以上です。

3 閉会